

豪雨の概要

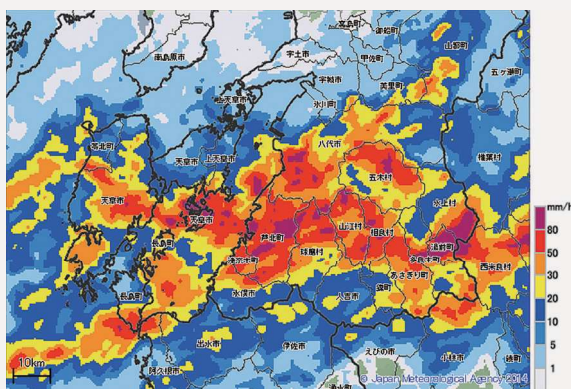
降雨の状況

- 令和2年7月3日夜、梅雨前線が九州北部地方まで北上し、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州では大気の状態が非常に不安定となり、記録的な大雨となりました。
- 特に球磨川流域では、線状降水帯が形成され、時間雨量30mmを超える激しい雨が、7月4日未明から朝にかけて、8時間にわたって連続して降り続けました。
- 球磨川本川の中流部から上流部及び最大支川の川辺川の各雨量観測所における降雨量は、6時間雨量、12時間雨量及び24時間雨量において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る降雨を記録しました。

7月4日の線状降水帯

2020年7月4日2時00分

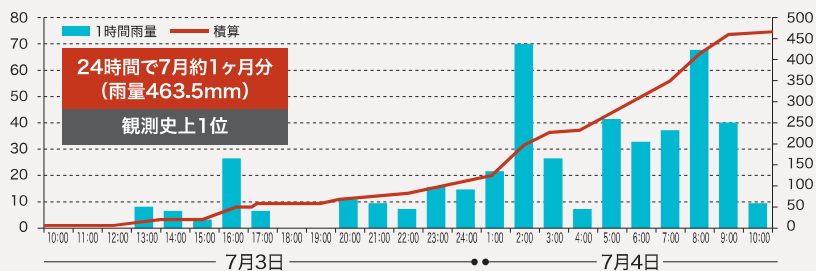
熊本地方気象台



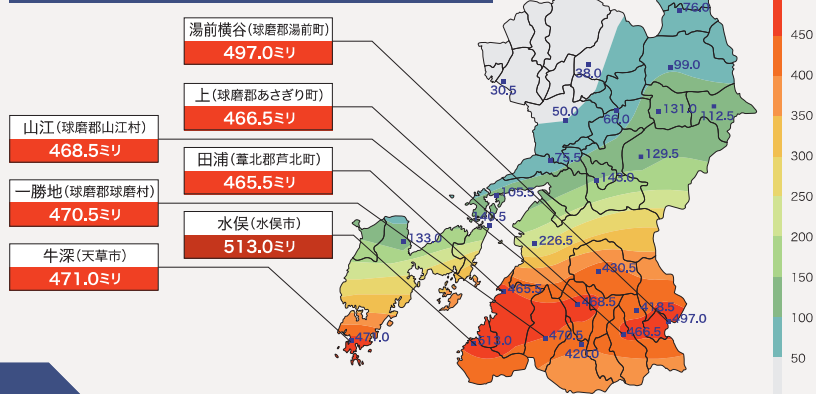
7月3日午前10時から4日午前10時までの時間雨量(24時間)

アメダス降水量(あさぎり町上)

熊本地方気象台資料を加工

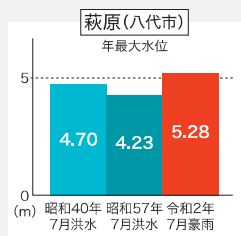


アメダス総降水量の分布図(7月3日～4日)

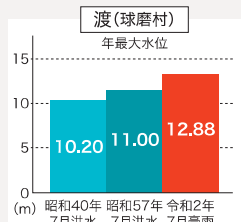


球磨川の水位の状況

球磨川本川及び支川川辺川における各水位観測所では、いずれの観測所においても、昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る水位を記録するとともに、観測開始以来最高の水位を記録しました。



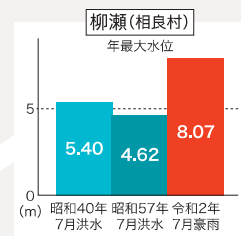
※萩原水位観測所は、S29.5より自動観測開始



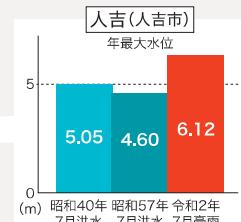
※R2.7洪水: 7月4日7:30以降欠測
※渡水位観測所のS40.7は普通観測値
S54.4より自動観測開始



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。



※柳瀬水位観測所は、S26.7より自動観測開始



※R2.7洪水: ロガーデータにより水位を補充 7月4日8:30以降欠測
※人吉水位観測所は、S26.1より自動観測開始